



れんけいと支援



富山市今泉北部町2-1 / Tel: 076 (422) 1112 (代) <http://www.tch.toyama.toyama.jp> / 発行日 2010年2月

地域の医療・保健・介護・福祉の方とともに、皆様の健康をお守りします

地域連携・開放型病床症例 検討会の運営を振り返って

消化器外科部長 角谷 直孝
開放型病床症例検討会司会担当



地域連携・開放型病床症例検討会が現在のスタイルで始まって丸4年が経過しました。それまで内科と外科系数科中心の症例発表形式であったのを全科参加のスタイルとし、症例報告だけでなく講演形式も取り入れ当初は症例報告3例、ミニレクチャー1題で行って来ました。90分の内容にしては盛りだくさん過ぎる、やや時間が長いなどのご指摘をいただき現在は症例報告2例、ミニレクチャー1題、時間は75分に短縮し運営しています。これまでの検討会を振り返って今後の検討会のあり方、地域連携のあり方を考えてみたいと思います。

ミレニアムを迎えてはや10年、世界は政治、経済の面でグローバル化（アメリカ化）、標準化が加速度的に進行しています。医療の世界ではDPCやクリニカルパスの導入、種々の業務のマニュアル化が行われ、他方、病院と診療所の機能分担と連携の強化（病診連携）や病院の機能別再編と連携の強化（病病連携）がうたわれています。これらは医療のグローバル化、標準化の流れとその一環での構造改革とも考えられます。しかし、グローバル化、標準化は果たして真の意味で人々が幸福になるツールとなりえるか、単にアメリカ流のルールの押し付けに過ぎないのではないかといった疑問は一昨年のリーマンショック後に盛んに巷でささやかれているところです。

DPCやクリニカルパスはさておき、地域連携の強化や病院の機能別再編は理論的には突き進むべき歴史の一点であることに異論はありません。しかし、理論はあくまでタテマエであり人々に（医師に）広く受け入れられるにはホンネの部分に響くものがないと定着しないのではないかと考えます。

地域連携・開放型病床症例検討会の目的は何かと問われれば、地域の先生方との交流を深め開放型病床の利用を促進することで患者の福祉向上に貢献する、というのが答えだと思います。確かに、指標として開放型病床の利用率などを見ればその目的は十分とはいえないまでもかなり達成されているといえるかもしれませぬ。しかし、真の意味で連携が発展するには関係者のホンネに迫る、何らかの強いインセンティブが働かなければと考えます。

次のページ

Contents

地域連携・開放型病床症例検討会の運営を振り返って ...	1.2
研修・講演・勉強会のご案内	2.3
2月の地域連携・開放型病床症例検討会報告 ...	3
研修・講演・症例検討会参加者数のご報告 ...	4
「がん・なんでも相談室」からのご報告 ...	5
糖尿病研究会について	5
診療所・病院・施設訪問	6
S QUE院内研修1000'について	7
医師不在のお知らせ	7
緩和ケア病棟だより	8
編集後記	8

お互いの顔の見える連携は認知、気概の確認のためにももちろん必要ですがそれだけでは解決できない何かを強く感じます。病院側の要因では外来にかけける時間、労力など労働の低減がひとつのインセンティブであり（経済的インセンティブが働くのであればなお良い）、開業医側の要因としては紹介した患者が確実に戻ってくる、逆紹介で新たな患者を獲得するなど経済的なインセンティブがそのひとつと考えられます。

これらの双方に同意可能なインセンティブを梃子にホソネのレベルでの連携が機能し始めたとき、地域連携ならびに開放型病床の運営が真の意味でうまく機能しているといえるのではないのでしょうか。残念ながらいまだその地点には到達していないというのが筆者の正直な感想です。

研修・講演・勉強会のご案内

3 月分

1 . 地域連携・開放型病床症例検討会

3月

日時：3月9日（火） 19：00～20：15 場所：当院3階 講堂



ミニレクチャー：「慢性咳嗽の診断と治療」

呼吸器内科 石浦 嘉久

一般に、長引く咳嗽を慢性咳嗽と呼んでいるが、我が国では「胸部の身体所見や画像所見によって原因を特定できない8週間以上持続する咳嗽」と定義しています。咳嗽の持続期間を8週間以上としている理由は、感染症による咳嗽を除外し、かぜ症候群後などにみられる、いわゆる遷延性咳嗽と区別するためです。成人を対象とした臨床研究では、本邦の慢性咳嗽の三大原因疾患は、咳喘息、アトピー咳嗽、副鼻腔気管支症候群と判明しています。原因疾患の診断にあたっては、まず乾性咳嗽か湿性咳嗽かを鑑別し、乾性咳嗽であれば咳喘息かアトピー咳嗽かを、湿性咳嗽であれば副鼻腔気管支症候群を念頭において診断を進めるのが現実的です。咳喘息とアトピー咳嗽は、その病態がいずれも好酸球性下気道疾患という点では類似していますが、生理学的所見や咳嗽の発症機序に違いがあり、治療法や長期管理の必要性などが異なるため、的確な治療のためには両者の鑑別が必要です。咳喘息では気道過敏性と気管支平滑筋トーンの軽度亢進があり、放置しておくとな数年のうちに約30%の患者が典型的な喘息に移行します。咳嗽は気管支平滑筋の収縮を介して発症するため、気管支拡張薬が有効です。一方アトピー咳嗽では、気道過敏性は正常で、咳受容体感受性の亢進が認められます。咳喘息と違い、喘息に移行すること

はなく、咳嗽は咳受容体の亢進により発症するため、気管支拡張薬は無効で、ヒスタミンH1拮抗薬とステロイド薬が有効です。両者は、気道過敏性、咳受容体感受性、ピークフローの日内変動といった生理学的所見を調べれば鑑別できるのですが、これら呼吸機能が顕著な変化として現れないケースも多く、必ずしも全例で診断がつくとは限らず、また簡便な方法ではないため一般臨床でこれらの検査を実施することは困難でもあるのが難点です。このため咳喘息とアトピー咳嗽の鑑別にあたっては、気管支拡張薬による治療的診断が実際的かつ有用な手段として広く用いられています。

2 刺激薬などの気管支拡張薬を3～7日間投与し、咳嗽の明らかな軽減がみられた場合には咳喘息と診断し、咳嗽軽減後は吸入ステロイド療法による長期管理が望まれます。一方、無効であった場合にはアトピー咳嗽と一時的に診断してヒスタミンH1拮抗薬を投与し、これが有効であればアトピー咳嗽と診断します。咳嗽軽快後の長期管理は不要です。咳嗽再燃が約50%の症例で見られるものの、最初と同じ治療で軽快します。ただしこれらの治療によって咳嗽が完全に軽快しない場合には、その他の原因も想定して検査と治療を行う必要があります。この場合気軽に御相談いただけますようお願いいたします。

症例検討

・精巣原発非ホジキンリンパ腫の一例

血液内科 寺崎 靖

・生後3ヶ月に白色便で発見された先天性胆道拡張症の女児

小児科 舌野 陽子

4月

日時：4月13日（火） 19：00～20：15 場所：当院3階 講堂

ミニレクチャー

非触知性精巣に対する腹腔鏡を用いた診断・治療
腹腔鏡下ヒルシュブルグ氏病根治術

小児外科 岡田 安弘 山崎 徹

2. 内科CPC

日時：3月9日(火) 17:30~
場所：医局カンファレンス室
毎月第2火曜日に開催

3. とやまレントゲン読影会

日時：3月19日(金) 19:00~20:00
場所：集団指導室
毎月第3金曜日に開催

4. 富山地域コメディカル研究会

日時：3月4日(木) 17:30~
場所：集団指導室
テーマ 最近の薬品情報
ロールプレイングを通して
学ぶ患者支援の実際
進行役 副看護師長 立野恵子

5. NST学習会

日時：3月19日(金) 18:00~19:00
場所：講堂
テーマ 「胃ろう造設、管理について」
講師 消化器内科 蓑内慶次医師

6. 感染対策学習会

日時：3月8日(月) 17:45~19:00
場所：講堂
テーマ 「職業感染防止とEUの常識」
講師 感染対策アドバイザー
波多江 新平先生

7. 看護研修 衛星研修S-QUE

《Eナース》
日時：3月3日(水) 18:00~19:30
場所：講堂
テーマ 看護必要度

日時：3月17日(水) 18:00~19:30
場所：講堂
テーマ 看護診断(記録)について

《特別企画》

日時：3月26日(金) 17:00~19:10
場所：講堂
テーマ 平成22年度社会保険診療報酬改定



研修の横に対象となる職種マークをつけました。
お気軽にお越し下さい。



医師



看護師
保健師



介護支援
専門員



リハビリ



ケアに関わる
スタッフ

富山市民病院 研修・講演・症例検討会参加者数のご報告 〈平成21年4月～平成22年1月〉

当院では、「れんけいと支援」やホームページに研修案内を掲載し、地域医療機関の皆さまと共に、研修や講演、症例検討会を行ってきました。年度途中ですが、今年度1月までの参加者数をご報告いたします。今後も引き続きお気軽にお越しください。

1. 症例検討会・研修

研修 ()内は開催回数	地域参加者数	当院参加者数	計(人)
1 地域連携・開放型病床症例検討会(10)	171	224	395
2 とやまレントゲン読影会(7)	15	12	27
3 糖尿病研究会定例学習会(7)	131	174	305
4 富山地域コメディカル研究会(1)	8	25	33
5 感染対策学習会(4)	237	356	593
6 感染セミナー<血管内留置カテーテル管理>(1)	23	41	64
7 褥瘡対策委員会症例検討会(8)	90	162	252
8 緩和医療委員会学習会(6)	10	245	255
9 NST学習会(7)	24	174	198
10 腹膜透析セミナー(3)	13	79	92
11 救急事例検討会(2)	95	59	154
12 プレストケア勉強会(1)	1	18	19
13 救急蘇生研修(2)	0	31	31
14 救急蘇生レスピレーター研修(2)	0	62	62
15 教育原理・管理(1)	0	14	14
16 リーダーシップ(1)	0	15	15
17 教育方法・評価(1)	0	13	13
18 チームワーク・人間関係・コミュニケーション(1)	0	14	14
19 マネージメント・ケースマネージメント(1)	1	15	16
20 腎臓病教室(2)	0	13	13
21 衛星研修S QUE(28)	63	725	788
22 有害事象モニタリングセミナー(1)	23	10	33
23 地域連携クリティカルパス意見交換会(2)	20	48	68
24 富山圏域リハビリテーション研修会(2)	152	37	189
25 地域連携実務担当者ネットワーク講演会(1)	60	7	67
26 睦美会文化講演(1)	2	67	69
27 コンフリクトマネージメントセミナー(1)	44	6	50
28 富山ターミナルケア懇話会(1)	2	28	30
合計	1185	2674	3859

当院が事務局として行った研修も入っています。

2. 出前研修

研修 ()内は開催回数	施設数	参加者数(人)
1 接遇(3)	3	228
2 キネステイク(2)	1	32
3 スキントラブル(2)	1	87
4 看護記録(2)	1	98
5 傾聴(1)	1	38
6 感染対策(1)	1	45
7 ターミナルケア(1)	1	80
8 がん症状マネージメント(1)	1	100
9 インフルエンザ予防(1)	1	106
10 医療メデイエーション(1)	1	70
11 医療安全研修会(2)	2	291
12 コンフリクトマネージメント(2)	2	182
13 看護管理(1)	1	15
合計	17	1372

出前研修とは当院より講師が施設へ出向いて研修を行うものです。

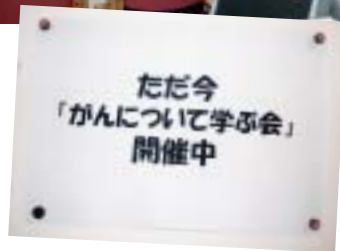


「がん・なんでも相談室」からのご報告

がん・なんでも相談室相談員 島田 真理子



最近、がんに関するテレビの番組で「ご質問やご相談は、お近くのがん診療連携拠点病院に『がん相談支援センター』が設置されていますので、ご利用下さい」と案内されていました。相談支援センターが、啓発されてきていますが、まだまだご存じのない方も多く感じています。市民の方々に気軽にご利用いただければ、と思います。



「がん・なんでも相談室」を開設して約4ヶ月が経過しました。まだ相談件数は多くないのですが、経済的なこと、緩和ケア、手術前後の不安、家族との関わりなど、相談内容は多様です。中には、情報の少ない高齢者の方や話す相手がいない独居の方が不安を抱えて訪室され、「話を聞いてもらえて楽になった」と帰られる方もいらっしゃいます。相談室は1階にあり個室になっておりますので、本人に知られずに相談

したいご家族の方や、周りを気にせずゆっくり話をしたい方などから、利用しやすいとかがって嬉しく思っています。今月より相談室廊下の掲示版にがんに関するテレビ番組のご案内も掲示しています。

また、2月5日から市民公開講座「がんについて学ぶ会」を開催し、2回の講義が終了しました。10人程度の少人数の方を対象として開催しましたが、くつろいだ雰囲気の中で、どの方も熱心に聞いていらっしゃいました。1回目のテーマは「がんと上手につきあう方法」で、緩和ケア認定看護師である市橋看護師長の講義でした。「気持ちが楽になりました」と帰っていかれる方がいらっしゃいました。第2回目のテーマは「がんの予防と胃がん・大腸がん・乳がんの治療」で、当院泉院長の講義でした。「定期的ながん検診をしているが、それでもがんになりますか？」など、日頃からの疑問を積極的に質問されていました。6回シリーズで、今後あと4回講義を行います。

これからも多くの方の相談に応じ、情報を提供していきたいと思っておりますので、気軽に声をかけていただきたいと思います。

糖尿病研究会について

糖尿病研究会は、糖尿病療養指導士（看護師や栄養士、薬剤師など14名）の有志で発足しました。地域医療機関の方々とともに毎月第一木曜日の17時30分より学習会を開催しています。現在まで、糖尿病の基本である、食事療法、運動療法、薬物療法、心理面への援助、フットケアなどをテーマに学習してきました。9月と3月には90分と時間を拡大し、トピックスをテーマに行いました。

糖尿病看護に携わる私たちは、患者さんが糖尿病とともに生き、生活を営む生活者であることを理解し、心理的社会的状況を踏まえながらよりよい人生を送ることができるよう、支援していきたいと考えています。この研究会を通して、地域医療機関の方々とともに、患者さんやご家族の思いに寄り添うことができる支援能力を拡大していきたいと思っております。

日頃の看護の中で、困っている事例がございましたら、お気軽に相談してください。



《連載企画》 診療所・病院・施設訪問 59 富山城南温泉病院

今回は「富山城南温泉病院」を訪問させていただきました。

名 称	医療法人社団 城南会 富山城南温泉病院
住 所	富山市太郎丸西町1丁目13番 6
医 師	飴谷博先生(院長)
標 榜 科	内科、整形外科、リハビリテーション科
診察日・時間	月～金曜日 9:00～12:00 13:15～17:00 土曜日 9:00～12:00 日曜・祝日休診
定 員	療養病床190床
施 設	介護療養型医療、居宅介護支援事業所

訪問記



富山城南温泉病院前景



飴谷院長先生とスタッフの皆様



作品展示

1月にしては珍しくよく晴れた日の午後に、富山市太郎丸の「富山城南温泉病院」を訪問させていただきました。院長の飴谷博先生はじめ加藤看護師長、スタッフの方々が迎えて下さいました。富山城南温泉病院は、まだ富山医療圏に療養目的の病院が少なかった昭和55年に開院、療養型病院として先駆的な役割を果たしてこられました。当院からは距離的に近いということもあり、療養目的の転院を希望される患者さんやご家族が多くいらっしゃいます。そういった中で、日頃の連携のあり方、患者さんやご家族への説明内容などについて、お話を聞かせていただきました。

富山城南温泉病院は、医療処置が必要な患者さんを多く受け入れておられ、麻薬による疼痛コントロールが必要な末期がん患者の受け入れも可能とのことでした。院長の飴谷先生は、「最近では、胃ろうの患者さんがますます増えており、いろいろな病院から入院申し込みがあります。医療処置が必要な患者さんや介護度の高い方も、積極的に受け入れをしています。気管切開をしておられる患者さんなど、どうしても受け入れが難しい場合もありますが、まずは相談に来ていただきたい。」とのことでした。

また、同じ城南会の介護老人保健施設や特別養護老人ホーム、ケアハウスなど他の介護施設との連携を密にしておられ、施設から急性期病院に入院となった場合、一旦は富山城南温泉病院でしばらく経過を診てから、再び施設に戻っていただくこともあるそうです。

お話をうかがった後には、院内の見学をさせていただきました。病棟東側のロビーからは立山連峰が一望でき、とても明るい雰囲気でした。入浴は天然温泉を利用することができ、介護度の高い方でも積極的に入浴していただき、清潔や褥瘡予防に努めているとのことでした。また、通路にはクリスマス会の写真や職員の作品が展示され、温かい雰囲気を感じました。

日頃からふれあい地域医療センターにおいて、多くの方の相談に応じていますが、今回の訪問で療養先の病院について、より理解を深めることができました。今後の相談に活かしていきたいと思えます。お忙しい中、ありがとうございました。

< 衛星研修 >

S QUE院内研修1000'について

看護部では、平成21年4月より衛星研修・オンデマンド研修を採用し、職員研修を行ってきました。衛星研修は各分野のエキスパートによる最新の知識を衛星通信で全国の病院や施設に同時中継するもので、臨場感あふれる講義を受講することが可能です。オンデマンド研修は衛星研修を見逃した場合もインターネットが利用できる環境であれば、一定期間受講が可能です。このような研修を地域医療機関の皆様にも当院での衛星研修の受講を可能とし、平成21年4月に今年度の予定をお送りいたしました。「れんけいと支援」でもその都度ご案内してきました。平成21年4月より平成22年1月までの10ヶ月間で、当院の職員725名、地域医療機関より63名が受講しています。

平成22年度についても、衛星研修・オンデマンド研修を継続いたします。22年度のスケジュール・テーマ・講師については、「れんけいと支援」4月号の送付時に同封したいと考えています。職員の継続教育にご利用いただければ幸いです。

S - QUE院内研修1000'《Eナース》22年度前期テーマ

- 4月 エビデンスに基づいた感染管理の知識とスキル
心電図の基本を極める
- 5月 院内急変を予測できるフィジカルアセスメント
急変対応（救急看護技術と蘇生）
- 6月 正しい酸素療法を知ろう
人工呼吸療法を知ろう
- 7月 周手術期看護 1
周手術期看護 2
- 8月 患者の心理を知ると看護が変わる
アサーティブに看護倫理を理解する
- 9月 がん化学療法の基本的ルール
知りたい！癌性疼痛と緩和ケア技術



医師不在のお知らせ

外来担当日の休診のみ掲載

3月分

科名	不在日	医師名	科名	不在日	医師名
内科	24日 (PM)	余川	外科・乳腺外科	8日、11日、18日	泉
	5日	山下		3日、4日	廣澤
	4日、5日、18日、19日、26日	石浦		16日	吉川
	17日	大田		29日	深谷
	18日、19日	寺崎靖	脳神経外科	5日	宮森
	5日、26日	清水		18日、19日	山野
	19日、26日	千代		25日	得田
	3日	山崎宏	小児外科	18日	岡田
産婦人科	15日	金枝	歯科口腔外科	25日、26日	寺島
整形外科・関節再建外科	2日、5日、16日、12日 (PM)	澤口	小児科	18日、19日	三浦
	19日	伊藤	形成外科	23日、24日	置塩

その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。

～緩和ケア病棟だより～

まだまだ寒い日が続いています。緩和ケア病棟では、お雛様のタペストリーや桃の花が飾られ、早春の暖かい雰囲気にも包まれています。

節分の日に「ダイニングルームたてやま」へ集った患者さんとご家族は、赤鬼に扮した板野医師と青鬼に扮した男性看護師に向かって「鬼は外！福は内！鬼は外！福は内！」と力を込めて豆まきを行いました。女性の患者さんは、豆まきが始まる前から「豆まきは何時から始まるの？それに向けて体を調整しなくっちゃね」と体調を整えて参加し、「童心に帰ったようで楽しかった」と満面の笑みで話されました。

ご家族からは「毎年妻と近くの神社で豆まきをしていたんですよ。今日は妻の笑顔が見られて嬉しかったです。この妻の笑顔に惚れて結婚したんですよ。」と、とても幸せそうな顔で話されました。

皆さんの笑顔と笑い声が病棟に響きわたり、そこに集うみんなの心が温まった『節分の日』となりました。

緩和ケア病棟での日々が、患者さんとご家族にとり、より思い出深いものとなるように、今後もハートフルなイベントを行っていきたいと思います。



～緩和ケア病棟へ入院を希望される方がいらっしゃいましたら、
ふれあい地域医療センターへご連絡ください～

編集後記

2月17日に地域医療支援研修委員会を開催しました。外部委員の皆様には年度末でお忙しいにもかかわらず、ご足労をおかけしました。私たち職員では気づかない点に関して貴重なご意見をうかがいました。3月25日には今年度4回目の地域医療支援病院委員会を開催します。地域医療支援病院としての役割を果たしていくためには、皆様に助けていただいている、と実感します。

それにしてもこの冬は雪が多く降りました。もう大雪の心配はないでしょうか。我が家の庭ではふきのとうが顔を出してきました。ふきのとうは、独特の香りが強く、味覚から春を感じることができます。桜咲く本格的な春の来るのが待ち遠しい今日この頃です。

ふれあい地域医療センター 高畑 由記子



「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 FAX 076 (422) 1154

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/>
がん・なんでも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp



この印刷物は、グリーン基準に適合した印刷資材を使用した環境配慮型製品です。